

## ことばの力

長沢小・1 白とり ゆうな

一年生になって、はじめてのプールのじゅぎょうがはじまるうとしていたころのことです。おかあさんといっしょに水ぎやまきまきタオルをかいにいきました。うれしくて、はやくプールに入りたいという気もちが大きくなっていきました。でも、そのいっぼうで大きなプールに入ったこともないし、もぐれたこともないわたしは、こわいなとおもう気もちも大きくなっていきました。たのしみに行っている気もちとこわいとおもう気もちのりようほうでどきどきしていました。

はじめてのプールのじゅぎょうの日になりました。おかあさんにやってもらっていたきがえをがんばってじぶんだけでしました。大きなプールを目のまえにして、足がつくのかしんぱいがつよくなってきました。プールに入ると、水がくびまできたけれど、どきどきはすこしおさまりました。

水になれてきて、もぐるれんしゅうのじかんになりました。先生が、

「はなをつまめば、大じょうぶだよ。」

といってくれました。ゆう気を出してやってみました。すると、水の中にもぐることができました。先生のいうとおりにしたら、できたのです。それから、わたしはじしんがついて、こわがらずにできるようになりました。プールのじかんがたのしみになりました。

わたしのともだちにまだ、もぐれない子がいました。わたしはその子に、

「大じょうぶだよ。」

「できるよ。できるよ。」

とおうえんしました。おうえんをつづけると、そのともだちは、かおを水につけることができました。

先生に「できるよ、大じょうぶ。」といってもらえて、わたしはがんばれたので、わたしもおなじようにともだちをおうえんしてあげようとおもいました。

たった一つのことばでゆう気やげん気、じしんをもらったり、あげたりできることをしりました。これからもまわりの人をえがおにできるようにことばをつかいたいし、わたしもおうえんしてもらえようがんばっていきたいとおもいます。